

# 人文研紀要

第98号～第100号(2021年)

◆第98号—2021年(2021年9月発行 A5版378頁)

ぎこちない隣人 —1970年代初頭サンフランシスコ湾区の日系人と華人—	深町 英夫
自己と「空」のフィールド —井筒俊彦の「東洋哲学」における「我」の問題—	小嶋 洋介
モートンの環境哲学(2)	竹中 真也
実在の経験をめぐって	寺本 剛
ルソーにおける戦争と抑止するもの —戦争法・国家連合・人民主権—	落合 隆
ジャン＝ジャック・ルソーによる「財政制度」批判の検討	西川 純子
総合人間学への道 —人間とは何か その総合的認識をもとめての私の歩み—	堀尾 輝久
聖トマス・ベケットの約束と巡礼地の誕生 —ポンティニーの聖エドマンド崇敬をめぐる論争—	北館 佳史
カズオ・イングロ『わたしたちが孤児だったころ』 —語りの歪みの考察(上海時代)—	安藤 和弘
「聞き間違い」の脱構築 —ジャン＝クロード・ピエット『物質の演劇』における音楽演奏のパラダイム—	新田 孝行
徳島県大松遺跡出土ハイガイの年代学的研究	遠部 慎
新潟県千溝遺跡出土土器付着物の炭素14年代測定研究 —縄紋時代早・前期を中心に—	小林 謙一
「あの朝、まさにあの朝、二人は踊った」 —レイモンド・カーヴァー「ディスタンス」論—	中野 学而
観念論から実在論へ —世紀転換期アメリカ哲学史(1)—	大厩 諒

◆第99号—2021年(2021年9月発行 A5版432頁)

絵画的連想から読む「園遊会」	板谷 洋一郎
『鏡の国のアリス』におけるアリスのごっこ遊びと独り言	川崎 明子
初老芸人、中年女性を救う —スーザン・ヒルの「ちょっとした歌と踊り」を精読する—	丹治 竜郎
領事の手紙の出現	野呂 正
分析的読みの一助としての「音読活動」 —学術ドイツ語の読解に向けた授業実践—	羽根 礼華 林 明子
生垣、浮浪者、メルヴィルの『レッドバーン』	福士 久夫
中華人民共和国湖南省における方言番組をめぐる政策について	小田 格
日本語の間接関与構文について	施 葉 飛
反ユートピア文学における暴力 —中国当代文学の四作品を中心に—	朱 力
伝統文化における花の心 —『花戦さ』を中心に—	彭 浩
魯迅の文体と写真的感性(4) —「短編性」初探—	山本 明
「ベルリン反ユダヤ主義論争」とは何か	平山 令二
Duolingo アプリ —補助教材としての可能性—	大浜 陽子
アイスランドスパーの詩学 —アンドレ・ブルトンの連作ポエム=オブジェ—	前之園 望
《伝記物語》の変容(その4) —『フロリヤンとフロレット』をめぐって—	渡邊 浩司

◆第100号—2021年(2021年9月発行 A5版391頁)

Seen through a Deserter's Eyes: Gendered Land of Vietnam in Robert Olen Butler's <i>The Alleys of Eden</i>	Hiroaki NAITO
Chasing the Spector of Traumatic Slavery: Poetics of Postmemory in Octavia Butler's <i>Kindred</i>	Issei WAKE
Fashioning Widowhood: Bigamy and Remarriage in Sixteenth-Century Spain	Satoko NAKAJIMA
超越の哲学 —カントとハイデガー—	須田 朗
歴史書から儀式書への移行	尾留川 方孝
カズオ・イシグロ『日の名残り』(二) —ヘリテージ文化の影のもとで—	丹治 愛
角逐—燕王軍と遼東軍と—	川越 泰博
梅国禎と万暦二十年寧夏兵変	荷見 守義
<史料紹介・翻刻> 東北大学附属図書館狩野文庫所蔵 『相国寺供養日記』	矢嶋 翔
鎌倉御家人長井氏の同族間ネットワークについて	西川 広平
「性別」をなくすという企て —村田沙耶香『無性教室』—	黒岩 裕市
パウル・ツェラン —「灰色の言葉」へ	北 彰